

キャンピングカー活用模索

冬季ワーケーション推進

鶴居村観光協会

【鶴居】農泊などの滞在型観光に取り組むNPO法人「美しい村・鶴居村観光協会」（和田正宏理事長）は、ワーケーション推進の一環で冬期間のキャンピングカー活用を模索している。国の特別天然記念物・タンチョウが飛来する冬は宿泊施設が満室になることが多いため、レンタルキャンピングカーの有効活用を目指し、昨年末には村内で実証実験も行った。（戸田英吾）

新型コロナウイルス感染症の影響で観光客は減少したものの、釧路空港に近いこともあって、最近ではワーケーション

の来村が急増している。多数のタンチョウが飛来する冬季は大勢の写真愛好家からでにぎわった



ワーケーションを推進するため冬期間のキャンピングカー活用の実証実験を実施

め、宿泊施設は満室の日が多く、新たにワーケーションを受け入れるのは難しいのが実情。

昨秋は、夏季を想定したグランピングなどのワーケーション体験ツアーを実施し、一定の成果を挙げたことから、今回は寒さを気にしないキャンピングカーの活用を試みた。

昨年12月中旬、村外のキャンプ場経営者やレンタル業者ら7人が3日間、実証実験を行った。タンチョウ以外にも釧路湿原など景観の素晴らしい観光名所が点在するため、キャンピングカーでKumoko Camp場所に移動。寒さを気にせず簡単に移動できることや、ワーケーションに適していることを確認した。

道内の観光業者が連携し、レンタルキャンピング

カーを活用したツアーの開発の方も大丈夫。冬期間を軸に年間を通してキャンピングカーの受け入れを積極的に進めていきたい」と話している。